

降灰厚計測デバイスの現地実証実験を実施

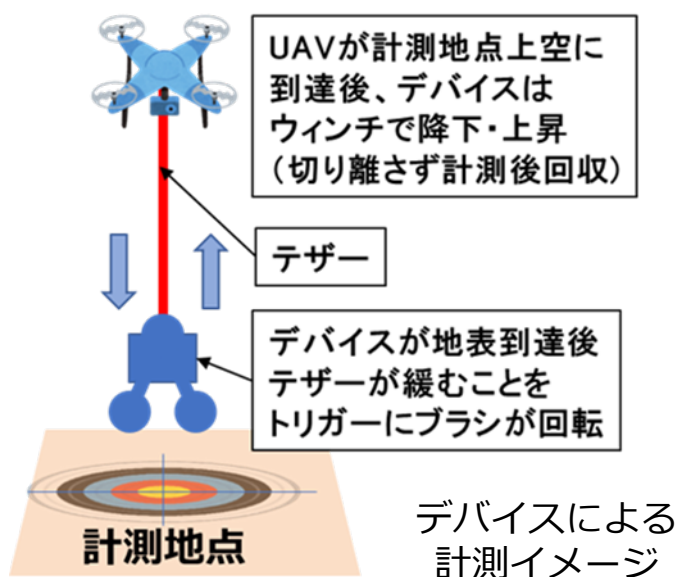
～浅間山噴火に備え、周辺自治体等への開発技術の説明を行いました～

噴火により火山灰が堆積した山腹斜面では頻繁に土石流等が発生する傾向があり、周辺地域に甚大な被害を及ぼす場合があります。そのため、火山灰分布の迅速な把握が求められます。

そのため、噴火活動が継続し立ち入りが禁止される区域が設定された場合を想定し、無人航空機（UAV）や降灰厚計測デバイスを用いた火山灰堆積状況の計測技術について、浅間山で10月30日に実証実験を行いました。また、浅間山周辺の自治体や報道各社に対して、SIP開発技術を活用した国土交通省利根川水系砂防事務所の調査計画の説明を行いました。



降灰厚計測デバイス



羽田准教授(工学院大学)や利根川水系砂防事務所による報道機関への説明

SIP研究開発機関

・工学院大学・国際航業・北海道大学

当日参加機関

・国土交通省本省
・関東地方整備局
・利根川水系砂防事務所
・長野県・群馬県
・報道各社

(NHK長野放送局、読売新聞渋川通信部、日刊建設工業新聞、日刊建設通信新聞)